

世界銀行債券ファンド(毎月分配型) 〈愛称 ワールドサポーター〉

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第215期(決算日2025年5月12日) 第216期(決算日2025年6月12日) 第217期(決算日2025年7月14日)
第218期(決算日2025年8月12日) 第219期(決算日2025年9月12日) 第220期(決算日2025年10月14日)

作成対象期間(2025年4月15日～2025年10月14日)

第220期末(2025年10月14日)	
基準価額	2,840円
純資産総額	9,375百万円
第215期～第220期	
騰落率	14.9%
分配金(税込み)合計	30円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項にかかる情報を記載したものです。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)」は、2025年10月14日に第220期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<940860>

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.amova-am.com

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当運用報告書に関するお問い合わせ先

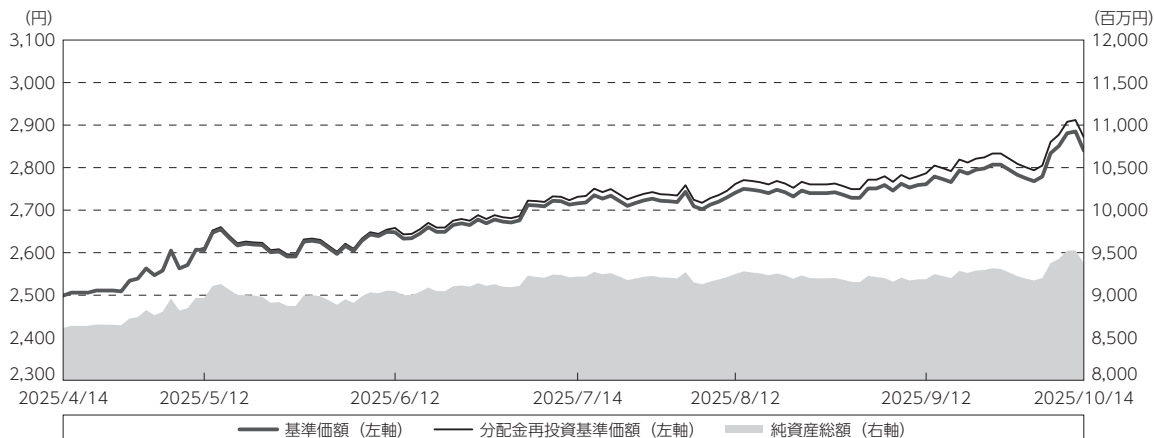
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2025年4月15日～2025年10月14日)



第215期首：2,499円

第220期末：2,840円（既払分配金（税込み）：30円）

騰落率：14.9%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2025年4月14日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・高利回りの新興国通貨建て世界銀行債券からの利息収入を得たこと。
- ・ブラジル、インドネシア、メキシコ、南アフリカなどの債券市場が好調に推移したこと。
- ・コロンビアペソ、南アフリカランド、ブラジルレアル、メキシコペソなどポートフォリオの組入れ通貨の一部が対円で上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・期間の前半を中心に、ボラティリティ（変動性）が高まったこと。

1万口当たりの費用明細

（2025年4月15日～2025年10月14日）

項 目	第215期～第220期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	13	0.496	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 4 ）	（ 0.149 ）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 9 ）	（ 0.331 ）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 0 ）	（ 0.017 ）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.018	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 0 ）	（ 0.002 ）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	（ 0 ）	（ 0.016 ）	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	13	0.514	
作成期間の平均基準価額は、2,683円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

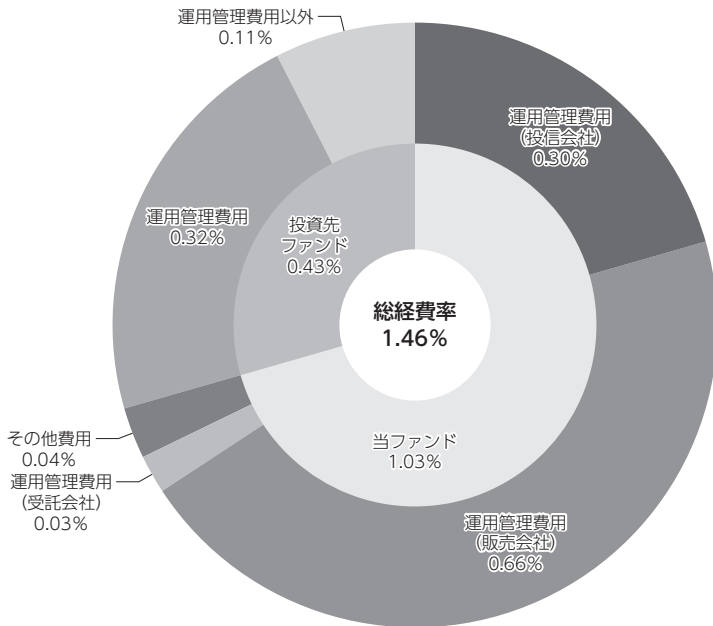
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)**○総経費率**

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.46%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.46
①当ファンドの費用の比率	1.03
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.32
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.11

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2020年10月12日～2025年10月14日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2020年10月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2020年10月12日 決算日	2021年10月12日 決算日	2022年10月12日 決算日	2023年10月12日 決算日	2024年10月15日 決算日	2025年10月14日 決算日
基準価額 (円)	2,099	2,142	2,336	2,558	2,653	2,840
期間分配金合計(税込み) (円)	—	120	120	85	60	60
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	7.9	15.1	13.6	6.1	9.5
純資産総額 (百万円)	11,721	10,552	9,989	9,823	9,100	9,375

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2025年4月15日～2025年10月14日）

（債券市況）

新興国市場の通貨および現地通貨建て債券は、アメリカドルの下落と多くの新興国のマクロ経済環境の改善に支えられ、2025年第2四半期および第3四半期を通じて堅調に推移しました。米国の財政状況や世界的な外貨準備の構造変化がアメリカドルの下落を促し、新興国通貨にとって前向きな環境をもたらしました。

メキシコペソ、ブラジルレアル、南アフリカランドなど、高利回りかつファンダメンタルズ（基礎的条件）が健全な通貨は顕著な上昇をみせ、投資家の関心を再び集めました。また、現地通貨建て新興国債券市場も、インフレの鈍化や中央銀行による積極的な金融緩和、高い実質利回りなどに支えられ、堅調に推移しました。インドネシアなどでは、安定した経済成長やディスインフレ傾向を背景に利下げが実施されました。これらの動きに加え、財政の健全化や対外収支の改善が進んだことで、外国資本が現地通貨建て新興国債券市場に回帰しました。投資家は、先進国債券との利回りの差や通貨の分散効果に魅力を感じました。流動性の構造的な改善や国内の投資家の拡大も、現地通貨建て新興国債券の回復力と魅力を一段と高め、現地通貨建て新興国債券は期間中における世界の債券市場の中でも良好に推移しました。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの0.48%近辺からほぼ横ばいの推移となり、0.48%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの0.32%近辺から徐々に上昇し、0.44%近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2025年4月15日～2025年10月14日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA）

新興国通貨建ての世界銀行の短期債券を中心に分散投資を行ないました。期間末時点では、メキシコペソ、インドネシアルピア、ポーランドズロチ、ブラジルレアル、インドルピー、南アフリカランド、チリペソ、中国人民元、コロンビアペソ、フィリピンペソ、ペルーソルなどの通貨建ての世界銀行債券に投資を行なっています。期間中、ファンダメンタルズ面の追い風が強く、インカム創出力が魅力的な水準にあるとみられる通貨の投資比率を高位に維持しました。

期間中、ブラジルレアルに対しては、高い実質利回りに支えられ、インフレによる影響を緩和する効果が継続していることから、前向きな姿勢を維持しました。ブラジルの中央銀行による積極的な金融引き締めは政策の信頼性を高めています。メキシコペソへの資産配分は、ボラティリティの高い局面にもかかわらず、概ね維持しました。これは、同通貨の強固なファンダメンタルズが依然として健全である

と判断しているためです。重要な点として、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）に基づく物品が関税制度の対象外となることにより、経済活動への悪影響は限定的になると見込まれます。アジアでは、インドネシアルピアへの資産配分を引き下げました。これは、政治リスクの高まりや政策の不透明感がボラティリティを高め、市場の信頼を低下させたためです。一方、安定したマクロ経済のファンダメンタルズや慎重な金融政策に支えられてボラティリティが低いフィリピンペソに資産配分しました。また、構造的な逆風と低調な経済成長の動向により、相対的に弱い推移が続いていることから、インドルピーへの資産配分を引き下げました。一方、チリペソへの資産配分を引き上げました。今後の選挙が市場心理の改善と政策の明確化を促すと予想されており、今後数四半期にわたってチリ資産にとって好ましい環境が整うとみています。これらの調整は、政策基盤が強固で前向きな材料を持つ市場への投資機会の獲得を意図したものです。

（マネー・オープン・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国債の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドは、原則として世界銀行が発行する債券でポートフォリオを構築しており、その運用方針においてESG（環境・社会・ガバナンス（企業統治））を主要な要素としていることから、アモーヴァ・アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。世界銀行は、発行する債券を通じて調達した資金で、貧困削減と持続的成長の実現に向け、主に新興国に対して融資や政策助言などを提供しています。

ESGを主要な要素として選定した投資対象への投資比率は100%（当期間末、組入債券の純資産比）としました。

アモーヴァ・アセットマネジメントのESG投資の詳細につきましては、以下のWEBサイトをご参照ください。

<https://www.amova-am.com/sustainability>

アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドはアモーヴァ・アセットマネジメントのグループ会社として、同グループのステュワードシップ方針に基づき、ステュワードシップ責任を果たしています。アモーヴァ・アセットマネジメントグループ（以下、「当社グループ」）では、ESG要素の考慮について、お客様に対する受託者責任の不可欠な一部であると考えています。ESG課題に関する投資先企業とのエンゲージメント（目的を持った建設的な対話）および議決権行使は、株式運用におけるステュワードシップ活動の主な手段であり、当社グループは議決権行使がお客様の利益に資するよう、細心の注意を払いました。債券運用においては、発行体とのエンゲージメントなど、他のステュワードシップ手段を用いることで、積極的な投資家となることをめざしました。

当社グループのステュワードシップ方針の詳細は、ホームページでご確認いただけます。

<https://www.amova-am.com/about/stewardshipcode/policy>

当ファンドのベンチマークとの差異

（2025年4月15日～2025年10月14日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

（2025年4月15日～2025年10月14日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第215期	第216期	第217期	第218期	第219期	第220期
	2025年4月15日～ 2025年5月12日	2025年5月13日～ 2025年6月12日	2025年6月13日～ 2025年7月14日	2025年7月15日～ 2025年8月12日	2025年8月13日～ 2025年9月12日	2025年9月13日～ 2025年10月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	5 0.191%	5 0.188%	5 0.184%	5 0.182%	5 0.181%	5 0.176%
当期の収益	5	5	5	5	5	5
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	111	113	116	118	120	123

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA）

新興国市場は、世界的な好環境や国内の底堅いファンダメンタルズなどに下支えされています。米国連邦準備制度理事会（FRB）は、2025年9月の米国連邦公開市場委員会（FOMC）で金融緩和サイクルを再開し、政策金利を0.25%引き下げることと決定し、四半期ごとのFOMC参加者による経済見通しや政策金利見通しを受けて、より緩和的な政策姿勢への期待が高まりました。米国の雇用統計が弱含む一方、インフレ率は安定的に推移するなか、アメリカドル安が進行し、米国債の短期部分の利回りが低下するなど、新興国通貨や現地通貨建て新興国債券市場にとって前向きな環境が形成されました。こうした状況を背景に、新興国通貨は幅広く上昇し、現地通貨建て新興国債券市場は、高い実質利回りやインフレの緩和、潤沢な流動性などに下支えされ、堅調に推移しました。現地通貨建て新興国債券市場は年初来で上昇しているにもかかわらず、ブラジルやメキシコ、南アフリカなどのハイイールド新興国債券市場を中心にバリュエーション（価値評価）は依然として魅力的な水準にあります。これらの国々では、信頼できる金融政策の枠組みや構造改革の実施によって投資家の信頼を引き続き確保しています。新興国市場の中央銀行は、インフレ抑制に向けて早期に行動したことで、政策運営の柔軟性を維持して

おり、今後も段階的な追加利下げを実施する余地があります。さらに、新興国市場での国内の投資家基盤の拡大や現地通貨建て債券発行への依存度の高まりといった構造的な変化が、外的ショックへの脆弱性を低下させています。

しかし、地政学的リスクが引き続き主な懸念材料となっています。ロシアのドローン（無人機）が北大西洋条約機構（NATO）加盟国の領空を侵犯する事例が相次ぐなかで地政学的な緊張が高まり、欧州の安全保障環境の脆弱さが改めて浮き彫りになりました。一方、中東ではトランプ米大統領がパレスチナ自治区ガザにおける停戦計画の交渉を推進しており、イスラエルの首相と暫定的な合意を取り付けたものの、状況は依然として不透明な状態にあります。新興国市場の政治的リスクにも注目が集まっており、目前に迫った選挙が投資家心理に影響を与えています。チリでは11月に大統領選挙が実施される予定です。現時点では、いずれの候補も当選に必要な過半数を獲得できず、上位2名による決選投票に進む可能性が高いと予想されています。チェコでは、10月に下院総選挙が予定されています。同選挙で、前首相率いる最大野党のポピュリスト政党「ANO 2011」が第1党となり連立政権を樹立することになれば、チェコの政策がよりポピュリズム寄りに傾く可能性があり、欧州連合（EU）との連携や域内の安定性に懸念が生じる可能性があります。FRBによる利下げやアメリカドル安の進行、新興国市場の底堅いファンダメンタルズなど、新興国資産にとって前向きな環境が継続しています。しかし、地政学的な緊張や政治的な不確実性を踏まえ、信頼性の高い政策基盤と改革の勢いがみられる市場を見極めることが求められます。

引き続き、新興国通貨建ての世界銀行の短期債券に分散投資を行なっていく方針です。原則として、中・長期的に高いリターンが予想される主要新興国の投資比率を高位に維持していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・オープン・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

約款変更について

2025年4月15日から2025年10月14日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更したため、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第1条、第15条）

その他の変更について

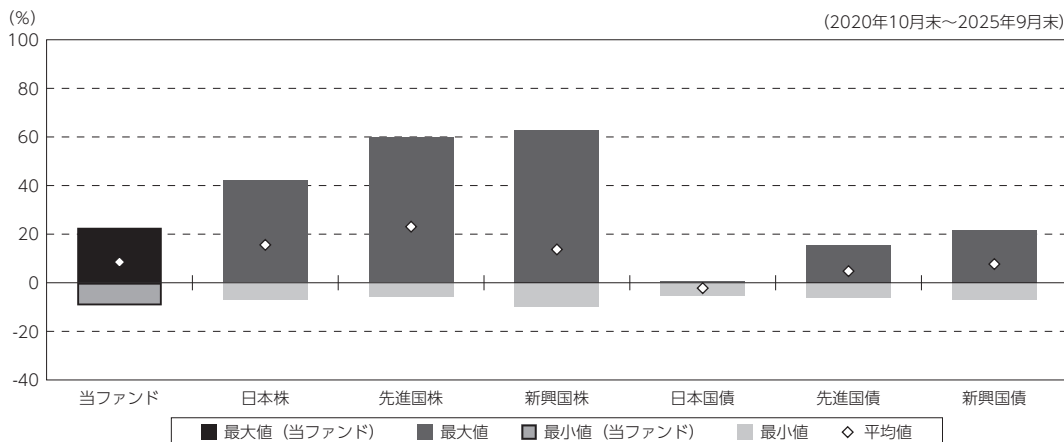
当ファンドが投資対象とするケイマン籍円建外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」につき、2025年9月1日付けにて投資顧問会社である「日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッド」がその社名を「アモーヴァ・アセットマネジメント・UK リミテッド」に変更いたしました。また、管理会社である「日興AMグローバル・ケイマン・リミテッド」がその社名を「アモーヴァAM・グローバルケイマンリミテッド」に変更いたしました。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2007年6月21日から原則無期限です。
運用方針	主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」 受益証券 「マネー・オープン・マザーファンド」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を主な投資対象とすることで、安定的な収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。各通貨への投資比率は、各国の経済状況、金利水準、市場の流動性などに基づき決定します。組み入れる債券は、原則として残存期間が3年以下（変動利付債の場合は10年以下）のものとし、ファンドの流動性を確保するため、一部米ドルやユーロなどの主要国通貨建ての債券に投資することがあります。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、基準価額水準などを勘案して、原則として安定した分配を継続的に行うことをめざします。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	22.6	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 9.3	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 7.0
平均値	8.5	15.6	23.1	13.7	△ 2.2	4.8	7.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年10月から2025年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）配当込み

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●TOPIX（東証株価指数）配当込みは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われるアモヴァ・アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2025年10月14日現在)

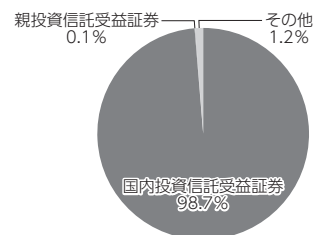
○組入上位ファンド

銘柄名	第220期末
	%
ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA	98.7
マネー・オープン・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

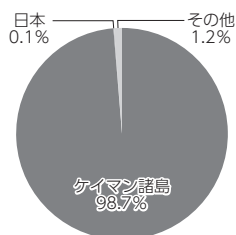
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

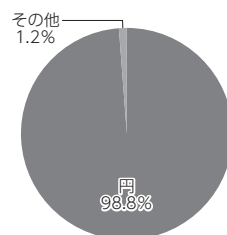
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第215期末	第216期末	第217期末	第218期末	第219期末	第220期末
	2025年5月12日	2025年6月12日	2025年7月14日	2025年8月12日	2025年9月12日	2025年10月14日
純資産総額	8,966,942,064円	9,048,607,884円	9,217,678,588円	9,249,099,851円	9,188,757,660円	9,375,667,994円
受益権総口数	34,402,455,902口	34,177,011,291口	33,938,871,359口	33,747,371,265口	33,285,309,029口	33,017,353,257口
1万口当たり基準価額	2,606円	2,648円	2,716円	2,741円	2,761円	2,840円

(注) 当作成期間（第215期～第220期）中における追加設定元本額は208,778,422円、同解約元本額は1,664,707,022円です。

組入上位ファンドの概要

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2024年3月1日～2025年2月28日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2025年2月28日現在)

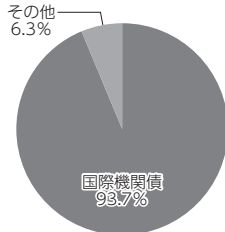
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率
1	IBRD 5.37% 27-JUL-26	国際機関債	ポーランドズロチ	国際機関	10.2%
2	IBRD 10% 08-NOV-27	国際機関債	ブラジルレアル	国際機関	9.8
3	IBRD 8.25% 21-DEC-26	国際機関債	南アフリカランド	国際機関	9.5
4	IBRD 3.375% 17-FEB-26	国際機関債	コロンビアペソ	国際機関	8.4
5	IBRD 8.5% 06-APR-26	国際機関債	メキシコペソ	国際機関	6.9
6	IBRD 0% 12-APR-27	国際機関債	インドルピー	国際機関	6.8
7	IBRD 6.25% 07-OCT-26	国際機関債	メキシコペソ	国際機関	6.7
8	IBRD 6.75% 08-SEP-27	国際機関債	インドルピー	国際機関	6.2
9	IBRD 4.75% 21-JAN-27	国際機関債	インドネシアルピア	国際機関	6.0
10	IBRD 5% 01-DEC-26	国際機関債	インドネシアルピア	国際機関	4.1
組入銘柄数		19銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

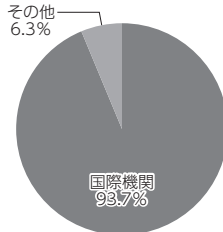
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

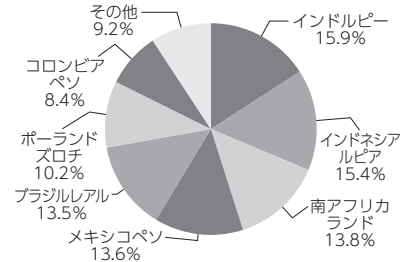
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



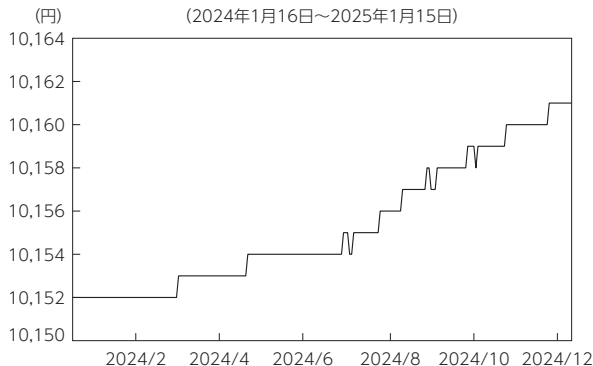
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・オープン・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2024年1月16日～2025年1月15日)



【1万口当たりの費用明細】

(2024年1月16日～2025年1月15日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2025年1月15日現在)

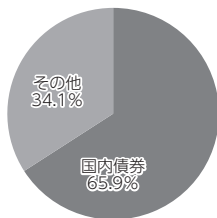
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	第445回利付国債(2年)	国債証券	円	日本	65.9
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

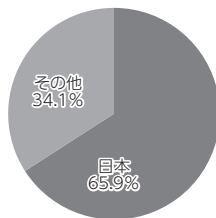
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

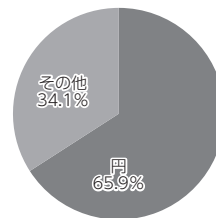
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

寄付についてのご報告

「世界銀行債券ファンド（毎月分配型）＜愛称 ワールドサポーター＞」は、2025年10月14日に第220期の決算を迎えました。

目論見書記載の通り、当ファンドでご負担いただいた当期間の信託報酬のうち、日々の純資産総額に年率0.05%を乗じた金額、総額2,283,012円を、国際開発協会（International Development Association、通称IDA：アイダ）に寄付させていただきます。ワールドサポーターを通じたこれまでの寄付金の総額は累計で、560,514,975円となっています。

IDAは、世界銀行の名で知られる国際復興開発銀行（IBRD）の姉妹機関として1960年に設立されました。途上国の中でも特に貧しい国々を支援するため、経済成長の促進、不平等の是正、生活水準向上等を実現すべく超長期で無利子の融資や贈与を行なっています。

アモーヴァ・アセットマネジメントは、今後もワールドサポーターを通じて、世界子どもたちに笑顔をもたらす新興国支援の取組みを応援してまいります。

引き続きワールドサポーターをみなさまの資産形成のツールとして末長くご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。